

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター新津担当圏域レベル 担当圏域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 6 年 9 月 25 日 （ 水 ） 9 時 30 分 ～ 11 時 00 分
2 開催場所	新津協働センター ホール
3 参加者	21名 委員10名（新津地区5名、可美地区5名）、関係機関8名、事務局3名
4 協議の内容	1.開会 2. 協議事項 ① これまでの振り返り SCより、第1回協議体会議の振り返りをした。 ② 【情報提供】 ・地域カフェの取り組みについて SCより、地域カフェについて紹介した。カフェ活動に至った経緯・特徴、開催日時、会場、参加費を紹介。また、地域カフェの紹介動画を紹介した。 ・巡回バス紹介 CSWより、巡回バスについて紹介した。 <巡回バス①> 浜松北病院 始めたきっかけ: 2012年開始。バスの本数減少、最寄りの電車まで遠い。患者にアンケートを取ったところ必要性があったため。 バス動線: 東・北・南まわりの順に運行。(1日4周、1つの周りが30分以内) 路線バスが動いていない患者に対してルート設定。バス停がないため、時刻表に乗降場所を記載、バスが来たら手を挙げてもらうようになっている。 利用者: 1日10名程。 <u>利用者からの声として「助かった」という意見があったため、本数を増やした。</u> バスについて: 20人乗り。リース。ドライバーは委託している。 チラシの有無: 特にチラシはなし。病院サイトに時刻表を掲載。 <巡回バス②> 十全記念病院 始めたきっかけ: 2009年程から開始。バスの本数減少、路線変更したことで病院側で必要と感じた。

バス動線: 全3ルート。ある程度病院の利用者が多くいる地域に設定。既存の路線バス停を利用している。バス停がない箇所は、市に相談して電柱に看板を掲載する等して分かりやすいようにしている。

医大からの打診により停留所に含めた。

近くの商業施設を経由するルートがあり、利用者が商業施設に寄って買い物ができるような可能性を考えた。

利用者: 1日20人程。朝は同法人の専門学生も利用する。

「助かった」との声があった。また、もっと本数を増やしてほしいとの意見も挙がった。

バスについて: 29人乗り×4台購入。ドライバーは、委託している。

チラシの有無: 特にチラシなし。病院・大学のサイトに時刻表を掲載。

【意見交換】各地区における今後の取組について

地区ごとに分かれ、グループで意見交換を行った。

【可美地区】<地域カフェの取り組みについて>

■カフェの実施場所

◇ふれあい交流センター可美

- ・大広間 → 椅子・テーブルの確保(イベントなどに使うプラスチック製の丸テーブル)
⇒ 持ち運びが便利
- ・図書コーナー → 改装後空きスペースになる、広くなるかも…そうすると明るくなる
⇒ 囲碁・将棋をやっている方が参加してくれるかも
- ・工作室 → 飲食禁止

◎・初めは少人数でだんだんと工夫をしていく

- ・皆さんに見える形にするかどうか
- ・道具、資材はある
- ・ふれあい交流センター可美の近隣病院の利用者がついでに寄ってほしい
- ・他のふれあい交流センターと比較して地元の利用率が多い。
(立地上可美地区の中心であることも考えられる。)
- ・Wi-Fi 環境があるため、中学生があつまりやすいのではないかな

◇企業の交流スペースの活用

- ・浜松信用金庫、遠州信用金庫、クックマートなどで交流スペースを設けている店舗もある。

■周知方法

- ・チラシ作成＋声かけ
- ・民生委員、シニアクラブ、地区社協サロン等…
- ・回覧板 (回覧板など回すだけではなく、配ることもする)

■人材

- ・地区社協委員に声かけ
- ・中学校ボランティア部
長期休みは運営側に回ってもらいキッズカフェを試みるのはいかがでしょうか。
- ・9/28(土)ボランティア講座の際に周知する。
- ・人材募集のスケジュールを立てる
- ・負担感を減らす

■開催日時、参加費

- ・9/28(土)ボランティア講座を終え、ボランティアが集まり次第決定していく。
- ・参加費は 100 円くらいを想定

■目的・目標

- ・外出の機会に
- ・新たな参加者
- ・男性の参加者の促進
- ・世帯間交流
- ・他地区、地域とのつながり・広がり

■—委員さんへのお願い—

「普段の生活でカフェに使えるようなスペースなど意識してみる」

■今後

- ・秋～冬に向けて 1 回開催したい
- ・一度地域カフェ活動に見学に行くのはどうか
- ・チラシ作成
- ・資材確認

【新津地区】＜買い物支援の拡充について＞

■敬老会(高齢者)アンケート共有（途中経過）

- ・地域ごと回収率に差がある。
- ・集計結果:「現在困り事はない」人が多い。⇒今は困っていないが今後は？
困り事で多かったのは、「草取り・交通・買い物」が多かった。

↓

草取りに関しては、一般家庭でも困る為、高齢者はなおさらではないか。
買い物に関しては、移動スーパーを知らない人もいる。

■シルバー人材センターについて

- ・シルバー人材も担い手がいないため、頼むと時間がかかる。

■高齢者について

- ・民生委員に独居高齢者の困り事相談があるため、話し相手になるボランティアが必要ではないか

↓

話し相手・居場所の観点から:

ふれあいサロンを作ったが来ない人がいる。今ある資源を情報提供するのはどうか。また、回覧板を見ない人がいるのではないか。

- ・災害時などの際に動ける・動けない高齢者がいる。
- ・地域の顔を見合わせる関係性の構築⇒近隣住民の助け合いが大切。

■買い物支援についての情報発信

- ・移動スーパーを知らない人がいることから、買い物支援についての情報発信をしたらどうか？(宅配・配食・移動、電話、ネットスーパー等)
- ・新津地区内での買い物支援の基本案を作成するのはどうか。

3.次回の協議内容について

日時:令和 7 年 1 月 31 日(金) 9 時 30 分から 11 時 00 分まで

場所:可美協働センター ホール

4.連絡事項

5.閉会

可新生活体制づくり協議体 副会長

5 今後の見通し・ 必要な対応	
--------------------	--

今回の協議体では、R6年度第1回生活支援体制づくり協議体振り返り、地域カフェの取り組み事例、巡回バスの紹介を行った。

各地区に分かれて可美地区:「カフェ活動について」、新津地区「買い物支援の拡充について」グループワークをした。

可美地区:カフェ活動について具体的な実施場所、日時、用具、担い手の検討を行った。

年内1回実施に向けて協議・準備をしていく。

新津地区:敬老会(高齢者)アンケートの共有を基に話し合いをした。

移動スーパーを知らない人がいることから、買い物支援についての情報発信をしたらどうか(宅配・配食・移動、電話、ネットスーパー等)という意見があった。

今後、新津地区内での買い物支援の基本案を作成について協議していく。